

1 令和7年度主要事業実施状況・令和8年度主要事業計画について

- 戦後80年特別企画展示「読ませなかったものと読ませたかったもの」（県立長野図書館で見学しました）、「信州発・これからの図書館フォーラム」第2回の「『読者の歴史』から『知る自由』を考える」（受講しました）は、図書館が戦前・戦中・戦後に「知る自由」を保障することに関してどのような対応を行ってきたのかとても興味深く学ぶことができました。ありがとうございました。自館はどんな対応をしていたのか調べて知るきっかけや、当館での開館110周年記念事業の展示の参考にもなり、飯田市の方たちにも一緒に考えていただく機会となりました。当時の読書会について認識を新たにしたいという住民の方の声もいただきました。
- 現在どの図書館や博物館・文書館等の教育機関でも、郷土資料の保存やデジタル化については課題となっており、当市でも検討をしつつあるところですが、「長野県 eLibrary 計画」の共有や、「信州デジタルコモンズ」の有効活用をしていく必要があると感じています。
アの「情報資源構築のあり方について検討を進める」とのことですが、その方向性についてまたお伺いできればと思います。
- 「調査相談（レファレンス）」
私たち市町村の図書館は、日頃県立長野図書館のレファレンスサービスには大変お世話になっています。丁寧な調査を行っていただき「利用者自身が課題を見つけ、調べ、解決する力を身に着けることを応援するスタンス」が強く感じられます。その姿勢は私たちの図書館でも大切にしたいとしているもので、参考にさせていただいています。
図書館が探究的な学びや主体的な活動に資するための大切なポイントであると考えます。

2 令和8年度当初予算案について

- コンピュータ管理費がかなりアップしているようですが、その主な要因はどのようなのでしょうか。リース料保守料等は上がっていると思いますが、DOI導入等、機能に関わる部分もあるのでしょうか？
- 求められるものが多様化している中、限られた予算や人的資源を何に使っていくか、様々な意見があるところだと思います。県立図書館を直接利用することができない住民の皆さんが多い地域、小さな自治体が多い地域の図書館としては次のような希望があります。
 - ・図書は購入したり他の図書館から借用したりすることができるが、データベースは他市町村へのレファレンスや購入も困難なため、県立図書館で充実を図っていただきたい。その費用は必要だと思います。

- ・図書購入費については、要求も多様化しており、長野県の県立図書館として必要なものは購入すべき（特に郷土資料）だと考えるが、どの自治体でも課題となっている資料デジタル化に関わる費用、有効活用が望まれる電子書籍に関わる費用についても、重点をおいていく必要があると考えます。
- ・児童書については、公共図書館未設置村も多い下伊那では、来館者用の児童書は抑えても、現在未実施となっている、幼児用の図書の団体貸出の復活を望む声を聞きます。
- ・「信州・学びラボ」「モノコトベース」の活動はとても魅力的なものだと思うが、正直な気持ちをお伝えすると、長野から遠い地域としてはなかなか利用できないこともあり、そちらへの費用投入は少し控えて全県で利用できる部分に費用を当てていただければと思います。
- ・予算規模の小さな図書館や図書館未設置自治体では、費用を負担して他自治体から相互化し借をすることは難しく、住民の方が諦めているということも少なくないことを考えると、県立長野図書館からの相互貸借や KINODEN を有効活用できるような案内を期待します。私たちも、近隣の自治体には積極的にお伝えしていきます。

3 子ども読書活動推進計画に関わって

○飯田市では、令和6年度から「全国学力学習状況調査」に読書の項目がなくなってしまうことから、市独自で小学校3年生から中学3年生までに学校を通じて読書調査を実施し、結果を公共図書館と学校図書館で考察して取組を検討しています。

この調査の結果からも、自分からは読まなくても、学校の取組（一斉読書や授業など）により読書に親しんでいる児童生徒がいることがわかり、小中学生の読書活動を推進するには、学校の取組が非常に重要であると捉えています。

2月22日の「信州発・これからの図書館フォーラム」も開催ありがとうございました。内容を学校図書館の皆さんと共有して具体的に取り組んでいきたいと思いました。